

テサロニケ

第一

②

# 神の言葉を 神の言葉として

テサロニケ人への手紙第一 2章 福音宣教と教会形成

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 福音宣教の心得 1～6節

II. 教会形成の心得 7～12節

III. この時代の教会の歩み 13～20節

## IV. まとめと適用

神の言葉を 神の言葉として



ギリシャの沿岸

## テサロニケへの手紙第一とは？

■ 著者 …使徒パウロ(書記テモテ)

■ 宛先 …テサロニケ教会

■ 執筆時期・場所

…コリント(最初の滞在中)

■ おもな目的 …教え切れなかった  
終末論の補講



## テサロニケへの教会とは？

- ギリシャ神話の神が名の由来
- マケドニア州の要衝の町  
ユダヤ人の会堂もあった
- 第二次宣教旅行でパウロが伝道  
教会が誕生
- 貧しくも信仰熱心だった  
マケドニア州にある教会の核に



## パウロの第二次宣教旅行

- 小アジアでの宣教を聖霊に禁じられ、夢で促されて、マケドニアへ。
- ギリシャ最初の宣教地ピリピでは、無実の罪で投獄。不思議な地震をきっかけに看守と家族が救われた。
- テサロニケの伝道は途中で妨害。ベレヤでも妨害を受け、アテネへ。
- コリントに長期滞在し、宣教に注力。



## テサロニケでの伝道の顛末

- パウロ、シラス(テモテモ)で訪問
- 会堂で安息日に3回、福音を告げる  
神を畏れる異邦人や有力な婦人たちが信じる
- ユダヤ人による暴動、ヤソンの家を襲撃
- パウロとシラスは、ベレアへ。  
ベレアのユダヤ人は受け入れるが、  
テサロニケから来たユダヤ人が妨害。  
➡パウロは一人アテネへ



テサロニケの古い家の門



I. 福音宣教の心得 1～6節

ギリシャの沿岸

## 成果 福音宣教 | テサ2:1～2

兄弟たち。あなたがた自身が知っている  
とおり、私たちがあなたがたのところに行  
ったことは、無駄になりませんでした\*。

それどころか、ご存じのように、私たち  
は先にピリピで苦しみにあい、辱めを受  
けていたのですが、私たちの神によって  
勇気づけられて、激しい苦闘のうちにも  
神の福音をあなたがたに語りました\*。

\*迫害にもかかわらず福音を伝えられた。



ピリピの円形劇場



## 動機 宣教の動機 | テサ2:3~4

私たちの勧めは、誤り\*から出ているものでも、不純な心\*から出ているものでもなく、だましごと\*でもありません。

むしろ私たちは、神に認められて福音を委ねられた者\*ですから、それにふさわしく、人を喜ばせるのではなく、私たちの心をお調べになる神に喜んでいただく\*として、語っているのです。

\*パウロたちへの敵対者の非難の言葉

\*パウロたちの自己認識

\*信仰者の根本的な動機



## 弁明 神が証人 | テサ2:5~6

あなたがたが知っているとおりに、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、貪りの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。

また私たちは、あなたがたからも、ほかの人たちからも、**人からの栄誉は求めませんでした\***。

■ 誰に媚びることもなく、自らの欲望のためでもなく、ただ**主の栄誉\***のため。





## Ⅱ. 教会形成の心得

7～12節

ギリシャ沿岸の教会

## 証言

## 愛する者 | テサ2:7~8

キリストの使徒として権威を主張することもできましたが、あなたがたの間では**幼子\***になりました。私たちは、自分の子どもたちを養い育てる**母親のように\***、あなたがたをいとおしく思い、神の福音だけではなく、自分自身のいのちまで、喜んであなたがたに与えたいと思っています。あなたがたが私たちの**愛**する者となったからです。

\*謙遜に      \*愛情深く

■ 信仰者の**愛**の模範は、イエス・キリスト



## 証言

## 自給伝道 | テサ2:9

兄弟たち。あなたがたは私たちの労苦と辛苦を覚えているでしょう。私たちは、あなたがたのだれにも負担をかけないように\*、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。

\*最初の宣教では報酬を受けなかった。

→背後に他の教会からの援助も

■コリント宣教も同様(IIコリ11:8)

「私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たのです」



## 証言 奉仕者として | テサ2:10

また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないように\*ふるまったことについては、あなたがたが証人であり、神もまた証人です。

\*主の教えに照らし合わせた態度で



ペリポリの遺跡

## 証言 父親として | テサ2:11~12

また、あなたがたが知っているとおり、私たちは自分の子どもに向かう父親のように\*、あなたがた一人ひとりに、ご自分の御国と栄光にあずかるようにと召してくださる神にふさわしく歩むよう、勧め、励まし、厳かに命じました。

\*子に神への従順を教え、育むのが、  
家長である父親の責務。



ペリピの遺跡



Ⅲ. この時代の教会と信者 13～20節

ギリシャの沿岸



## 成果 神の言葉 | テサ2:13

こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた**神のことば**を受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり**神のことば**として受け入れてくれたからです。この**神のことば**は、信じているあなたがたのうちに働いています。

- 神のことばを、神の言葉として受け入れるのが信仰。➔ここから始まる

**神の言葉は信じる者の内に働く**



## 成果 残れる者と共に | テサ2:14~15

兄弟たち。あなたがたはユダヤの\*、キリスト・イエスにある神の諸教会に倣う者となりました。彼らがユダヤ人たちに苦しめられたように、あなたがたも自分の同胞に苦しめられたからです。

ユダヤ人たちは、主であるイエスと預言者たちを殺し、私たちを迫害し、神に喜ばれることをせず、すべての人と対立しています。

\*教会は、本来、ユダヤ人の教会

■残れるイスラエルの信仰者と共に、

主イエスに倣うのが、異邦人信者の使命。



## 成果 満ちていく罪 | テサ2:16

彼らは、異邦人たちが救われるように私たちが語るのを妨げ、こうしていつも、自分たちの罪が満ちる\*ようにしているのです。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで極みに達して\*います。

\*神の怒りが下るのが大患難時代



## 成果 パウロの願い | テサ2:17

兄弟たち。私たちは、**しばらくの間\***あなたがたから引き離されてきました。といっても、顔を見ないだけで、心が離れていたわけではありません。そのため、あなたがたの顔を見たいと、なおいっそう切望しました。

\*迫害でテサロニケを追い出され、  
コリントに落ち着くまでの間

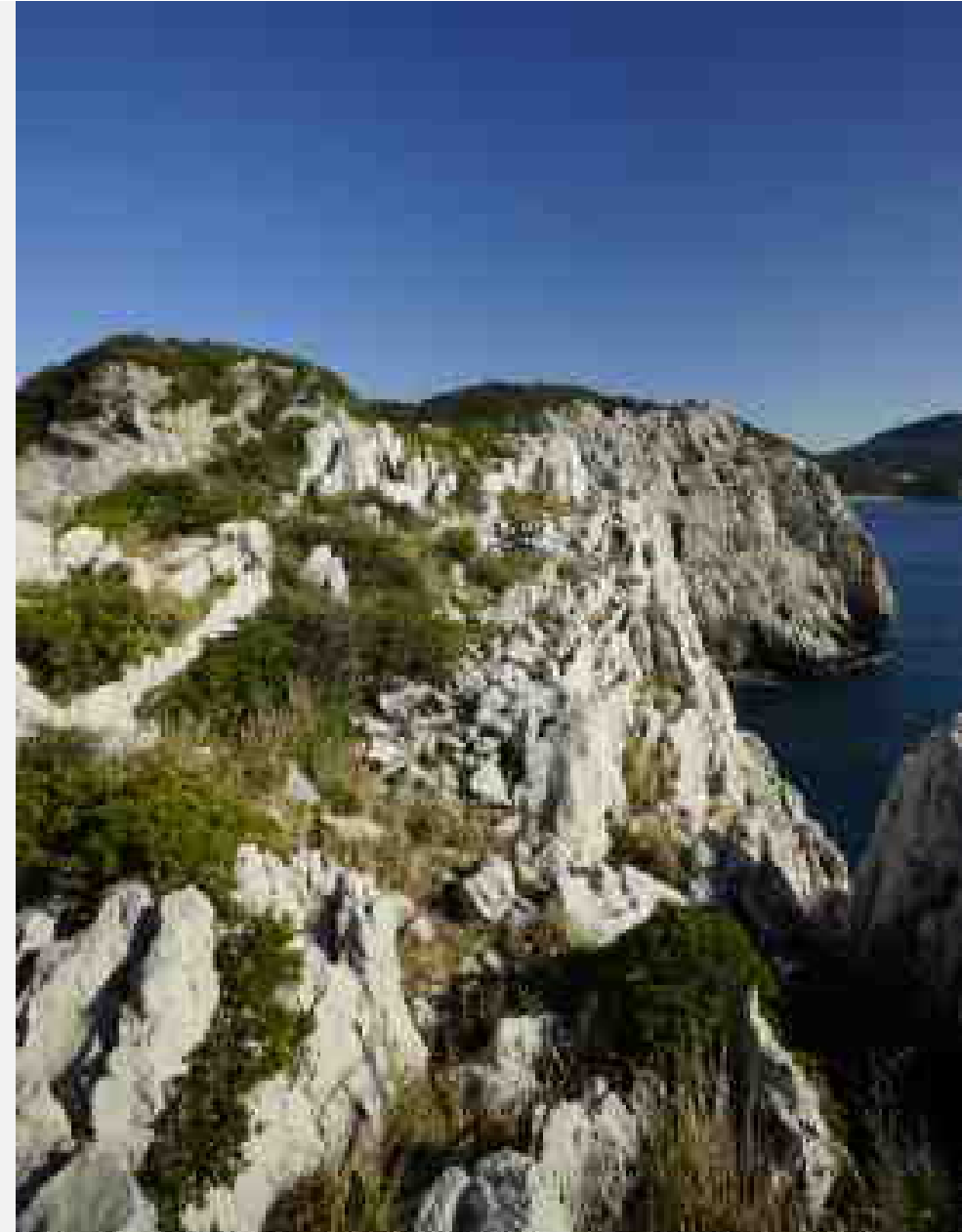


ペリピの遺跡

## 成果 サタンの妨げ | テサ2:18

それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。私パウロは何度も行こうとしました。しかし、サタンが私たちを妨げた\*のです。

\*コリントの信徒たちの問題？



## 成果 信者の喜び | テサ2:19~20

私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいだれでしょうか。あなたがた\*ではありませんか。

あなたがた\*こそ私たちの栄光であり、喜びなのです。

■ 宣教により救いに導かれた人々\*こそ、  
信仰者の希望、喜び、誇り。





## IV. まとめと適用

神の言葉を 神の言葉として

ギリシャの島々

# パウロの弁明

## ■パウロへの批判

「誤り、不純な心、だましごと」

「へつらいの言葉、むさぼりの口実」

→人が人を騙すのは、自分自身の利益、自分の栄誉のため

## ■パウロの弁明

福音は、真実。

→伝道の動機は、「ただ主に喜ばれるため」「主の栄誉のため」

**信仰者が福音を伝えるのは、ただ主の喜びと栄誉のため**



## テサロニケでの教会成長の過程に学ぶ

- ① 幼子のように …福音を知らない人に、**謙遜に福音を伝える**
- ② 母親のように …福音を信じた人の信仰を、**愛をもって育む**
- ③ 父親のように …他者に依存しない、**自立した信仰を促す**  
勧め、促し、命じる → 御言葉の学びが大前提

**謙遜に福音を伝え、愛をもって育み、自立した信仰を促す**

## 信仰者と教会のこの世の旅路

- ① **神の言葉**を**神の言葉**として受け入れる → 信仰の始まり
- ② 罪が満ちるまで、世にあっては、**迫害**がある。**孤独**も味わう。
- ③ イスラエルの罪が満ち、主の**裁き**の大患難時代がやってくる。  
(※信者は皆、大患難時代の前に携挙される)  
→ 反キリストによる大迫害を経て、民族的回心へ
- ④ 主イエスが再臨し、個々の信仰者に**報酬**が与えられる。  
→ 私を通して救われた人の存在こそ、最大の喜び、栄光

## ★ 神の言葉を神の言葉として ★

- **神の言葉を神の言葉として**、受け取り、学び、伝えて行こう。  
神の言葉が、人を救いに導き、育み、永遠の命と栄光を与える。
- 迫害や試練は、主が愛される子として、訓練されている証し。  
自分自身のことには、とどまっていると苦しくなる。行き詰まる。  
他者の救いのために、**一步外に踏み出そう。**
- 信仰者にとっての最大の喜びは、救いの瞬間に立ち会うこと。  
御国での最大の栄誉は、**私を通して救われた一人の人の存在だ。**

**いのちの福音を伝えるために、遣わされていていこう!!**

てん とう  
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、<sup>そむ</sup> 罪を<sup>つみ</sup>重ねてきました。  
ひび おか つみ こくはく つみ  
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、<sup>かみ</sup> 神のみ子<sup>こ</sup>イエス・キリストが、  
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

わたし すく えいえん あたえ あた ふくいん たずさ つか  
私を救い、永遠の命を与えた、この福音を携え、遣わしてください。

もと ひとびと かみ ことば かみ ことば つた  
求める人々に、神の言葉を神の言葉として伝えることができますように。

すく せいちょう しゅ みわざ み もち  
救いも成長も主の御業です。どうか、この身を用いてください。

ひとり ひと すく よろこ えいこう みくに え  
一人の人が救われて、喜びと栄光を御国で得ることができますように。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」